

本校が目指す5年後の姿

1 本校の現状と課題

本校は羽後高校教育推進協議会を年2回開催し、地元選出の県議会議員、羽後町長、羽後町教育長、小中学校長、地元企業幹部、学校評議員、後援会役員、PTA役員等からいただいた貴重な意見や提言を学校運営に役立てている。また、羽後町からは、公務員セミナーや就職対策セミナーの費用の補助など、財政面における多大な支援をいただき、保護者の負担を軽減している。

また、「羽後学」等のふるさと教育・地域連携学習を通して、地元理解を促している。こうした取り組みにより、地元の企業からは、生徒の就職に関して大きな期待が寄せられ、まさしく地域を支える学校として地元に貢献する人材を輩出している。一方、生徒の学力には課題も多く、国公立大学合格という成果を継続的に上げるには容易ならざるものがある。本校の課題は、生徒の多様な志望進路を実現させるための学力の向上とともに、地域の次代を担うたくましい青少年を育成することと捉えている。

2 学校を取り巻く将来の予測

平成31年度公立高等学校入学者選抜において、湯沢雄勝地区全体で募集定員495名に対し、合格者は403名であった。5年後の湯沢雄勝地区の中学校卒業予定者数は約400名であり、ますます厳しい状況になってくる。地元の羽後中学校から本校に入学してくる生徒数も確実に減少することが予想される。定員を確保するためにも、地域のニーズに応え、魅力ある学校づくりをしていくことが単独校として存続していくための必要条件となる。

		H28	H29	H30	H31
募集定員		80	80	80	80
入学者数	a	60	58	43	21
羽後中学校から本校への入学者数	b	38	28	21	7
羽後中学校の卒業者数	c	118	120	108	107
羽後中学校の本校への入学者数の割合(充足率)	b/a	63.3%	48.3%	48.8%	33.3%
羽後中学校からの本校への入学者数の割合	b/c	32.2%	23.3%	19.4%	6.5%
湯沢雄勝地区からの入学者数		19	30	20	12
他地区からの入学者数		3	0	2	2

3 目指す方向や学校像

教育目標を「21世紀をより善く生きる、心豊かで有為な人材の育成に努める」とし、校訓「精進努力」のもと「地域に開かれ、地域に信頼される学校」、「小さくとも温もりのある学校」として、心の教育とキャリア教育を充実させ、自己目標の達成と地域貢献に「精進努力」する生徒を育てることを目指し、重点目標として次の3点を設ける。

- (1) 学校の活力維持……………生徒数を確保しながら、学校全体の活力を維持していく。
- (2) 教育力の提供……………地域の高校としての教育力を小学校、中学校に提供する。
- (3) 地域との連携……………地域の教育力を活用し、地域の伝統文化の尊重と継続に努める。

4 5年間で達成を目指す具体的目標

(1) 進路指導の充実

- ①地元就職の促進……………就職希望者の80%以上を目指す。
- ・インターンシップを実施し、地元企業の良さを再確認させ、働くことの意義や職業についての理解を深める。(2年生)
 - ・職場見学を実施し、地元優良企業の存在を認識させる。(1年生)
 - ・進学者に対し、卒業後県内で就職することを視野に入れたキャリア教育を推進する。
 - ・「羽後学」で地元優良企業を調べ、発表会等を通して学校全体で共有する。
- ②多様な進学希望の実現……………学び直しと自発的な学びのための環境の整備。
- ・学習支援サービスを導入し、基礎基本の定着を図る。(1・2年生)
 - ・県内大学を見学する。(1・2年生)
 - ・国際教養大学や慶應義塾大学の学生と交流するなどの自己の進路を見つめ直す機会を増やす。
 - ・タイ短期留学の実施や羽後町留学の学生との交流を通して、グローバルな視点で考える力を養う。

(2) 部活動の活性化

- ・運動部では、中学校と連携した部活動を実践するとともに、外部コーチによる指導等も加えて、全国大会出場を目指す。
- ・文化部では、外部コーチ等の地域の教育力を活用し、全国大会出場を目指す。

(3) 地域の小学校や中学校との連携

- ・わくわく理科実験教室を実施する。……………小学5・6年生、中学1年生対象
- ・羽後中学校との連携による授業研修会を実施する。

(4) 地域に貢献できるボランティア活動

- ・「水源の森守り育て隊」(森づくり県民提案事業)
- ・薬物乱用防止街頭キャンペーン(ボランティア部)
- ・高齢者宅訪問(ボランティア部)
- ・献血ボランティア(ボランティア部)
- ・環境美化活動(全校生徒)
- ・社会福祉施設等での芸能披露(郷土芸能部)
- ・羽後町の事業への参加(生徒会、ボランティア部)

(5) ふるさと教育「羽後学」の実践

総合的な学習(探究)の時間で、1・2年生がふるさと教育「羽後学」を実施し、地元の良さを再認識し、将来にわたるライフプランを考えさせ、地域の発展に貢献する姿勢と態度を育成する。

(6) 地域連携の強化と学校の活性化

- ・羽後町の事業への参加を通して、地元の良さを再認識し、本校と羽後町の活性化を目指す。
- ・授業に地元の人材を活用するなど、地域との連携により地域が求める学校をつくりあげる。